



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人	代表者	永田美樹	法人・事業所の特徴	「ゆっくり」「一緒に」「わがまま」を理念に掲げており小規模多機能居宅型事業所として、通い、訪問、宿泊、を柔軟にサービス提供できるよう利用者それぞれの暮らしにあった支援ができるような場所作りをしている。
事業所名	小規模多機能ホーム月明館	管理者	竹本真由美		

出席者	市町村職員	1人	知見を有するもの	1人	利用者	1人	利用者家族	2人	地域包括支援センター	人	近隣事業所	人	事業所職員	3人	その他	人	合計	8人
-----	-------	----	----------	----	-----	----	-------	----	------------	---	-------	---	-------	----	-----	---	----	----

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・定期的なモニタリング評価を行い、個々のニーズにあったサービスを行う。 ・県道43号線沿いに看板を建てる。(光源寺前) ・年間事業計画に花壇づくり等、利用者と一緒に取り組める環境整備を取り入れる。	3ヶ月ごとの定期的なモニタリングを行うことができた。日々の変化をスタッフ間で共有することができた。 県道に看板を立てることで、より場所がわかるようになった。 利用者と一緒に花を植え咲くのを楽しみにされている。	・自己評価の欄で全体的に「よくできている」の回答が少ない。 ・職員のスキルアップの方法をどうするか。 ・看板設置で外からのは入り口が解りやすくしたが建物内が解りにくい。 ・非常口がわかりにくい。 ・清潔感があり、利用者の方がすこしやすそうにされている。	・職員のスキルアップの為の研修を立てて実行していく。 それに伴いサービス強化体制加算を開始する。 ・建物内の案内表示をわかりやすく設置する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・家族会や地域交流会などを取り入れる。	地域交流会では、多数の参加があり、事業所を知ってもらえよかった。 家族会は、できなかった。 個人個人のアクセスメントを十分行い地域との関わりを意識したケアプラン作成に取り組んでいるもの利用者によっては地域との関わりが難しい人もいた。	・小規模多機能という名前が難しい。 為、親しみやすい呼び名があると良い。 ・近くの保育園との関わりがあれば良い。 ・地域交流会、家族会が必要。	・家族会を開催し、開設2年間の事業活動の説明を行う。
C. 地域と地域のかかわり	・個人個人にあった地域との関わりを反映させたケアプラン作成と支援。	運営推進会議で、色々な意見をもらうことができた。 改善計画に活かすことができた。	・施設内だけでなく、散歩等で日常的にも外に出ていける工夫がいる。	・利用者の方が外出や地域の方と関われるような行事計画を立てていく。
D. 地域に外向いて本人の暮らしを支える取り組み	・運営推進会議で外部評価の結果を報告する。	防災訓練には、参加することができた。 防災訓練の参加計画の参加計画をする。	・他施設とのサービスの違いが判らない。 推進員のメンバーに近所の方も入っているので非常時には安心できる。 ・写真やスライドショーなどで分かりやすい工夫をすればどうか。	・推進会議時に活動の報告などは、写真やパワーポイントを用いて、わかりやすい工夫をしていく。→日頃からの利用者の方々の様子を記録や写真に収める。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・防災訓練時、運営推進委員の方の参加計画をする。	・防災計画・防災訓練が必要 ・消防署、消防団の参加依頼	・消防署、地元消防団を交えた防災計画の作成。	